

最近の対話活動の振り返りと 今後の取り組み

2016年1月27日

原子力発電環境整備機構

最近の対話活動

全国的な 理解醸成

- ①全国9都市での大規模シンポジウム（国との共催）
 - ・昨年5,6月開催テーマ：「地層処分の概要と必要性」「基本方針の改定内容」等
 - ・昨年10月開催テーマ：「処分地の適性」「段階的な選定の進め方」等
- ②webメディア拡充（メルマガ、フェイスブック、ホームページリニューアル、ポータルサイト開設等）
- ③マスコミ向け勉強会・意見交換会

地域ごと の対話

- ①全国各地の経済団体、女性団体等訪問（地域の団体への説明会・意見交換会等）
- ②「学習の機会」提供事業（経済団体、NPO法人、教育関係者等へ勉強会、講演会、施設見学会等を実施）

次世代層 へのアプ ローチ

- ①地層処分の「出前授業」（全国の学校の授業や教育関係者の集会等で説明）
- ②全国の科学館、商業施設等での家族向けイベント（展示車の出展、実験等）
- ③JAEA地下研究所親子見学会（夏休みに小中学生と保護者を対象に施設見学会）
- ④教育関係者の活動支援（教育関係者の教材開発活動を支援等）

対話活動で寄せられた主な意見と今後の取組の方向性(1/2)

【寄せられた主な意見】

地層処分の安全性・妥当性

- 日本では火山や地震の発生が多いため心配。
- 地層処分のリスクを踏まえた説明がほしい。
- 長期間で最悪どのような事態になることが考えられるかを示してほしい。絶対安全などないことは承知の上で、覚悟しなければならないことを明確に提示してほしい。
- 地上で1000年以上も保管しなければならないのは、現実的に無理があることが理解できた。
- 日本は進んでいないが、フィンランドやスウェーデンはどうやって処分地を決めたのか。

【今後の取組の方向性】

- 火山や地震の影響など、長期間の処分で起こりうる具体的なシナリオを示しながら、様々なリスクを踏まえた安全対策を含め、丁寧な説明を行っていく。
- 処分施設の建設許可が発給されたフィンランド等の海外の先進事例を紹介していく。

対話活動の方法

- 次世代が直面する課題であり、若い世代が知ることは大切。小・中学生の時に見たり聞いたりすれば、もっと認知が広がり理解も広がるのではないかな。
- 女性の参加を高めたほうがよい。
- 知識に濃淡があるのでターゲットを細分化し各層にあわせた説明が必要。
- 「草の根」運動で理解を拡げていくしかないと思う。
- もっと専門家（有識者）の意見が聞けるといい。

- 教育関係者のネットワークを拡大した若年層へのアプローチや、女性団体との連携等により、多様な層との対話活動を行っていく。
- 各層の関心を把握しつつ多様な広報素材を準備していく。
- 全国各地を訪問し、フェイス・トゥ・フェイスの草の根的対話活動を進めていく。
- 専門家の意見を聴く勉強会の開催等を支援していく。

対話活動で寄せられた主な意見と今後の取組の方向性(2/2)

【寄せられた主な意見】

【今後の取組の方向性】

地域対話の進め方

- 今後、**対話活動**をどのように進めるつもりか。
- 個人的には理解できたが、**地元の理解方法**をどのように進めるのが問題と考える。
- 調査を受け入れる場合、その**地元へのメリット**はあるのか。
- 雇用の継続**を図るスキームが大事。
- 町の発展計画**を国やN U M Oがしっかりサポートする体制がないと明るい展望が開けない。そこにもう少し具体性があれば良いのではないか。

- 今後の**地域対話の進め方**を具体化していく。
- 処分事業の経済波及効果や、地域の将来ビジョン等を踏まえた事業推進など、**地域の関心事項**を具体化していく。

処分地の考え方

- 処分地を**無人島**や離れ小島に作れないか。
- 最終処分場は原発立地地域ではなく、**消費地域**（特に大都市）にしてもらいたい。

- この問題は、**全国民に関わる問題**であり、特定地域だけの問題でないことを対話活動で訴えていく。
- こうした意見があることを踏まえつつ、今後の本WGにおける議論に貢献していく。